



令和8年3月20日

全線供用開始

熊本地震からの創造的復興 県道熊本高森線4車線化

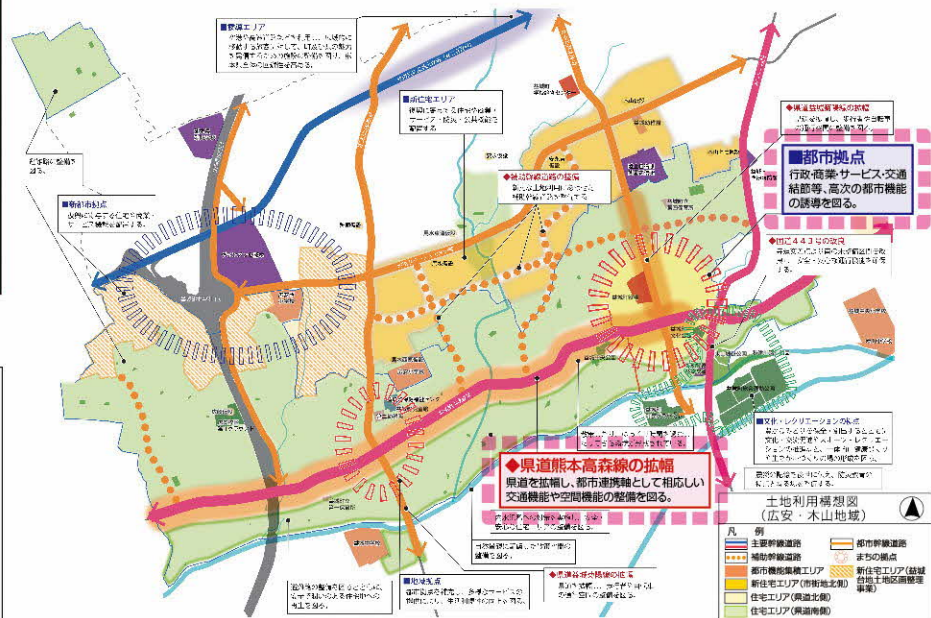
熊本地震からの『益城町の復興まちづくり』

平成30年12月「第6次益城町総合計画」において次の通り明示されました。

- 中心軸（県道熊本高森線）**
道路を軸として沿道に商業・サービス・医療など、生活に必要な都市機能の集積を図る
- 都市拠点（木山地区）**
行政・商業・サービス・交通結節等、高次の都市機能の誘導を図る



益城町復興計画における市街地の土地利用構想図



1 多様な機能を重視した道路計画・設計

子供から高齢者までを含む様々な利用者の通行、アクセスあるいは滞留といった交通機能、さらに市街地形成、防災空間、環境空間、情報収容空間など、**道路の持つ多様な機能を考慮し検討**を行っています。特に市街地形成機能や環境空間機能については、本路線が町の中心軸と位置付けられた市街地内の生活・経済活動に密着した街路であることを踏まえ、**沿道も含めた一体的な空間づくり**に取り組んでいます。

2 道路空間づくりに関する取り組み

道路空間づくりにあたっては、益城町および熊本大学ましきラボ(※)と連携し、益城中央線連絡協議会をはじめ地域の皆さんと情報を共有しながら、事業計画上の課題解決や住民意向把握に努め、熊本大学ましきラボからの「益城中央線に対する12の提言」を受け、道路設計へ反映しました。

※ 熊本大学ましきラボは、地震直後より益城町にサテライトラボなど活動拠点を設けて、住民の方々と対話しながら専門的な立場から地域の将来像を描く等の支援を行っています。



道路模型を用いた意見交換の様子

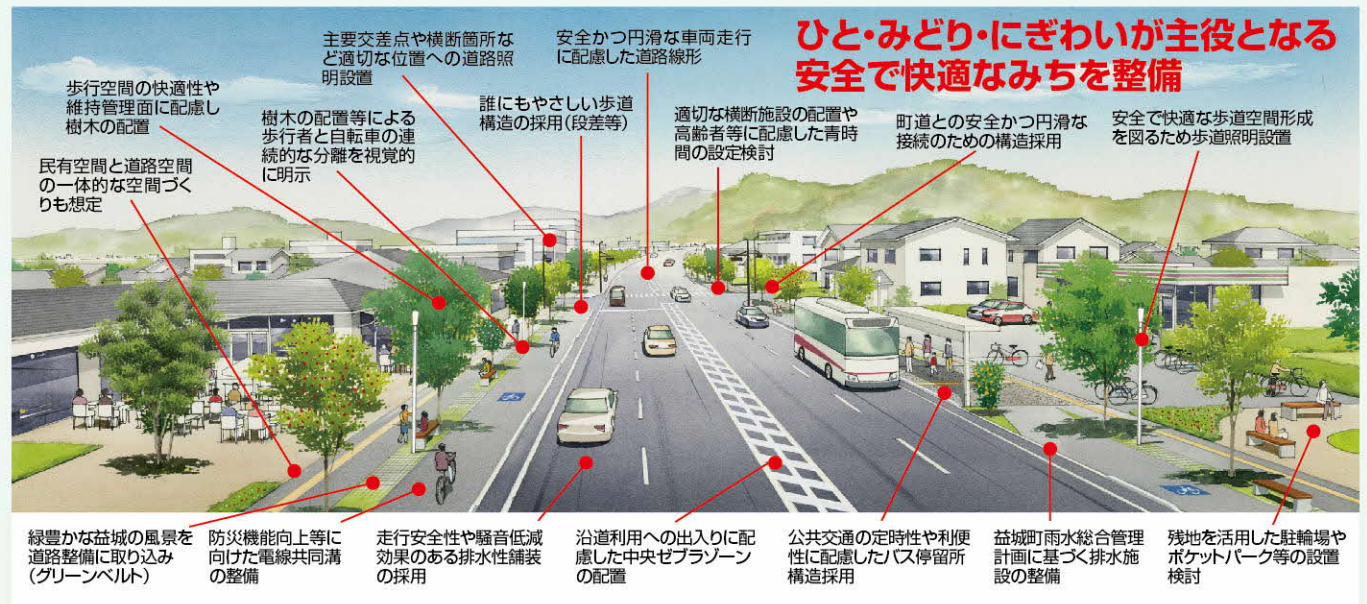


設計過程の見える化により住民意向を反映した模型等



バス停や歩道の原寸大模型（モックアップ）体験会の様子

3 益城中央線の整備イメージと設計のポイント



県道熊本高森線4車線化

【事業名】都市計画道路益城中央線ほか1線事業

熊本都市計画区域における円滑な都市活動を支え、土地利用の向上を図るとともに、市街地において災害に強いまちづくりに資することを目的として、平成28年熊本地震復旧・復興プランに基づき、「熊本地震」からの創造的復興のシンボルとなる益城町のまちづくりを支援する主要な取り組みの一つです。

目的

恒常的な交通渋滞



① 交通の円滑化

歩道幅が狭く歩行者等の通行に危険



② 安全な歩行空間の確保

倒壊建物が道路を閉塞



③ 防災機能の向上

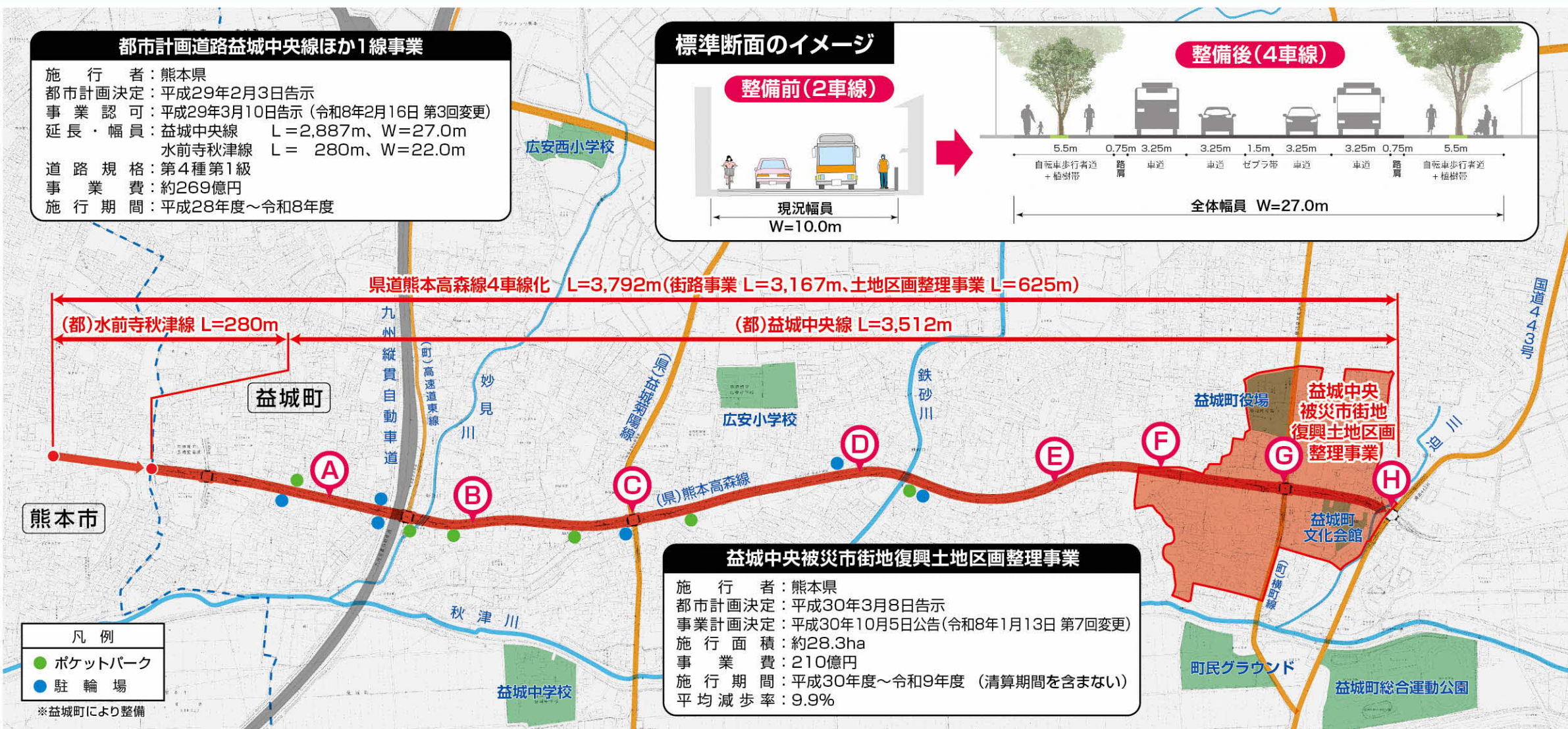
都市拠点における都市基盤整備

【事業名】益城中央被災市街地復興土地区画整理事業

熊本都市圏東部地域における都市拠点として、「益城町復興計画」の土地利用構想に基づき、行政・商業・サービス・交通結節点等、高次の都市機能を誘導するとともに、安心して暮らせる災害に強いまちづくりの実現に向け、道路や公園等、公共施設の整備改善と宅地の利用増進を図ることを目的に施行しています。本事業も、「熊本地震」からの創造的復興のシンボルとなる益城町のまちづくりを支援する主要な取り組みの一つです。

本事業は、益城町からの要望を受けて、熊本県が町に代わって施行しており、事業区域内の県道熊本高森線の4車線化整備は、本事業で実施しています。

【事業概要及び整備状況(令和8年3月)】



A 広崎地区



B 福富地区



C 惣領地区



D 馬水地区



E 安永地区



F 宮園地区



G 木山地区



H 寺迫地区





平成28年(2016年)4月に発生した熊本地震では、2度にわたり観測した震度7の激しい地震により、本県に未曾有の被害をもたらしました。特に、震源地に近かった益城町の市街地では、地震で倒壊した家屋等により、緊急輸送道路をはじめとする市街地内の多くの道路が通行不能となるなど、避難や支援、復旧活動に支障をきたしました。

熊本県では、熊本地震からの創造的復興のシンボルとなる益城町の復興まちづくりを支援するため、益城町の中心軸となる県道熊本高森線の4車線化及び町の中心部である木山地区において被災市街地復興土地区画整理事業に取り組んでまいりました。そしてこの度、熊本地震発生から10年の節目を迎える令和8年(2026年)3月に、県道熊本高森線の4車線化が計画区間全線で開通できる運びとなったことを皆様にご報告させていただきます。

事業実施にあたり、地元益城町の皆様をはじめ、多大なるご協力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。